

令和６年９月３０日

千代田区立いずみこども園

園　長　　穴　原　江　美

**１０月号**

****



「読書の秋」

副園長　村田　靖孝

スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋、芸術の秋。皆様のご家庭では、どの「秋」が一番盛り上がっていますか？

読書の秋はいかがでしょうか。絵本は、子どもたちにとってまるで魔法のような存在です。ページをめくるたびに、新しい世界が広がり、冒険が始まります。先日、4歳児の保育室に行ってみると、絵本の絵を見ながらお話を作って自分の言葉で語って楽しんでいました。子どもたちは絵本やお話の世界を自分の経験と結びつけながら、想像したり表現したりすることを楽しんでいます。現実に自分の生活している世界から飛び出して、未知の世界に出会ったり、旅したりすることもできます。字が読めなくても絵を見て絵本の世界に入り込んで楽しんでいるのですね。

毎日絵本を通じて子どもたちの心を豊かにする時間を大切にしています。子どもたちは、こども園で保育者に絵本を読んでもらう時間が大好きですが、おうちの方が読み聞かせてくれる時間はもっと特別な時間です。文字が読めるようになっても、小学校４年生ぐらいまでは読み聞かせが大事だそうです。良い絵本は、美しいものへの感性を磨き、言葉を育み、本への親しみが高まります。

乳幼児期に絵本をたっぷり読むことは、視覚や聴覚など脳の発達のベースとなる部分に刺激を与えることになり、自分で本を読めるようになっても読み聞かせをすることがとても大事だと、新聞記事にありました。そして情操教育や知育目的で読むのではなく、お話の世界に没頭したり、コミュニケーションをとったりしながら読むことが発達にはとても大切とのことです。読み聞かせの途中に挟まれる「不思議だね」「これってこういうことだよね」などの言葉によって「他者の視点」を獲得し、他者の視点に立って物事を理解する力にもつながるのだそうです。

子どものために「どんな本がいいのだろう」「どんなふうに読めばいいのかしら」と悩むかもしれませんが、まずは気負わず好きな絵本や物語を大人も一緒に楽しんでみてください。こども園ではたくさんの絵本や絵本シネマを通して子どもたちの豊かな心や創造性を育むために、絵本やお話の世界に触れる機会を増やしていきたいと思います。テレビや動画やゲームの世界も楽しいかもしれませんが、ぜひこの乳幼児期に多くの絵本やお話に出会ってほしいと願っています。

いよいよ10月、スポーツの秋本番です。10月19日には運動会『いずみふれi（あい）スポーツ』があります。運動会があるから体を動かすのではなく、日々の遊びを通してそれぞれの時期に必要な経験を積み重ねてきたことにつなげていくという意識のもと、取り組みを進めています。子どもたちは、学級のみんなと一緒に踊ったり、いっぱい走ったりしながら、楽しんで活動しています。子どもたちの姿から、やらされるのではなく、『やりたい！』という気持ちをもって自分から取り組むことの大切さを感じます。できなかったことができるようになった喜び、うまくいかなかった悔しさ、友達と力を合わせてやり遂げた満足感や達成感。いろいろな感情を味わい、心と体をいっぱい動かしながら、心身ともに健康に成長していくことができるよう、子どもたちの頑張りを支える『応援の秋』にしたいと思います。

いずみこども園

ホームページ

ＱＲコード